

令和4年度

学校自己評価表(報告)

学校運営計画				
学校運営方針	平和で民主的な社会の形成者を育成することを目的として、豊かな人間性と健やかな身体を育み、科学技術の進展に対応できる創造的な能力と実践的な態度を養う。 【具体的な目標】 ・基礎的な学力および専門的な能力の向上を図る。 ・スポーツ活動、文化活動に積極的に取り組む。 ・自他を敬愛し、ボランティアの心を育む。			
昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的な目標		
【成果】 ・就職1次内定率84%、最終内定率100%、公務員13人、国公立大学進学者20人であった。 ・登下校時の自転車運転マナー等について、指導等を実施し概ね改善が図られた。 ・運動部・文化部ともに全国大会北信越大会等に出場した。 ・学校見学会に参加して満足と回答した中学生の割合が94%であった。 ・地域の小学校、中学校、商工会などと連携を深め新しい取組を実践した。 【課題】 ・コロナ禍の中、多くの取組が中止、変更することとなった。今後は、新しい取組の形を模索していくことが課題である。 ・平成31年度まで国費事業として行った「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール(SPH)」の成果を活かし、これまで進めてきた学校独自の取組「新工未来プロジェクト」の再構築を検討し、時代に合致した学校づくりをさらに推進する。 ・トイレをはじめとした施設設備の充実化に向けた取組を進め、安全、安心な学校づくりを推進する。	1 生徒主体の学校づくり	1 生徒が自ら考え、判断し、行動できる学校づくりを進める		
	2 選ばれる学校、開かれた学校、地域とともにある学校づくり	1 生徒の希望、保護者や地域の負託に応え、選ばれる学校づくりを進める		
	2 学校の魅力を積極的に発信し、開かれた学校づくりを進める			
	3 地域と連携した活動を推進し、地域とともにある学校づくりを進める			
	3 キャリア教育の充実と進路実現	1 進路意識の啓発と関係部署の支援体制により、進路第1希望の実現を図る		
	2 基礎学力と実践力を育成し、国公立大学入学者を増加させる			
	3 就職希望者の進路実現に向け、資格・検定取得を推進する			
4 学習指導の充実	1 主体的に学び、考える学習姿勢を育成し、基礎学力の向上を図る			
2 ICTを効果的に活用しながら、創意工夫した授業により生徒の理解を深める				
5 生徒指導の充実	1 人間の尊厳を尊重し、他人を思いやる豊かな人間性を育む			
2 責任感の養成とルールやモラルの理解を図り、自らを律する規範意識を育成する				
6 部活動、生徒会活動の充実	1 部活動、生徒会活動等への積極的な参加により、総合的な人間力の育成を図る			
2 バランスのとれた心身の成長に適した活動を推進する				
7 働き方改革の推進	1 勤務時間、健康管理を意識した働き方改革を推進する			
2 健康で生き生きとやりがいを持って勤務できる環境を整える				
重点目標	具体的な目標	具体的な方策		評価
1	1-1	生徒会 (生徒指導、保健 防護、進路指導)	生徒と職員が意見交換する機会を設け、学校運営に反映させる	A
			さわやか挨拶運動、清掃強調週間等、生徒と職員が連携して行う行事を実施する	A
		生徒会	生徒の自主性を活かした生徒会活動を推進する	A
2	2-1	渉外	本校の学校運営方針を保護者に示す、PTA総会等の運営を通じて、保護者との連携を図る	A
		3学年	長期休業等を活用して保護者と面談を行い、また、生徒との定期的な面談を行い、生徒の希望について生徒・保護者・学校で情報共有する	A
		2学年	長期休業等を活用して保護者と面談を行い、また、生徒との定期的な面談を行い、生徒の希望について生徒・保護者・学校で情報共有する	A
		1学年	長期休業等を活用して保護者と面談を行い、また、生徒との定期的な面談を行い、生徒の希望について生徒・保護者・学校で情報共有する	A
		学科改編 検討委員会	当校のニーズを聴取分析し、学校の存在意義や期待される社会的役割を整理し、新しい学校づくりを進める	B
	2-2	生徒会	北斗祭をはじめとした学校行事等において、時代に合った方法で外部に学校の魅力を発信する	A
		広報・地域 連携推進委員	学校案内パンフレットをより魅力のあるものとし、高校説明会や学校見学会等で有効に活用する	A
		広報・地域 連携推進委員	各分掌、各科及び各部活動と連携を図り学校見学会を実施し、本校の教育活動を中学校生徒・教員・保護者に広報する	A
		広報・地域 連携推進委員	新たな広報媒体(動画等)の活用可能性を検討する	B
		図書・情報・視聴覚	学校ホームページを活用し、日頃の教育活動の様子を積極的に発信する	A
		部顧問会議	学習の成果を外部に発信する取組を通じて、学校に対する地域の理解を深める活動を行う	B
	2-3	部顧問会議	地域に求められる活動等を把握し、環境美化や出前授業等、地域貢献に関する活動を行う	B
		工業科	出前授業の実施等、地域貢献に関する活動を行う	A
		生徒会	地域と連携した取組に参加する等、地域活動の活性化に向けた活動を行う	B
		渉外	地域の介護施設等と連携し、地域貢献に関する活動を行う	A
3	3-1	進路指導	企業、上級学校との連絡を密にし、生徒にとってより効果的な情報を収集する集めた情報を活用して、進路相談等を充実させる	A
		進路指導	学年と連携し、進路行事を充実させ、生徒が主体的に進路を考える機会を設けることによりキャリア教育の充実を図り、進路意識の向上を図る	B
		1学年	学習習慣形成支援講演会や合格体験を聞く会をおとして、将来を見据えた進路選択ができるよう指導する	A
		2学年	希望進路別の進路ガイダンスを行ったり、オープンキャンパスへの参加を促すことにより、具体的な進路目標の設定と進路希望達成に向けた計画を明確化させる	A
		3学年	これまで進めてきた進路に関する指導のまとめとして、進路指導部と連携して、生徒の希望進路に応じた具体的な適切な進路指導及び支援を行う	A
		図書・情報・視聴覚	進路に関する選書等、生徒・教職員に必要な資料の提供を行う	B

3-2	進路指導	各教科と連携し、国公立大学受験希望者の学力向上を目指した個別指導計画を立案運営する	B	A		
	該当教科	進路指導部と連携し、効果的な小論文指導を実践する	A			
	3学年 (工業科)	進路指導部と連携し、効果的な面接指導を実践する	A			
	3-3	教務 (渉外)	前年度の資格取得状況を公表し、資格取得に向けた意識向上を図る		A	B
	工業科	ジュニアマイスター顕彰の認定等に向け、専門性を活かした資格取得を推進する	B			
4	4-1	教務	教育活動の充実に向けて、各種指導計画を整え年間計画を立案するとともに、生徒の学習時間等を把握し、各教科に指導の参考資料として提供する	A	A	
		国語科	漢字テストや校内統一学力テスト等を通じて、語彙力・読解力といった基礎学力の定着を図る	B		
		地歴公民科	地図・資料を積極的に活用するとともに、時事問題を取り上げ等、地歴公民分野への関心を高め基礎学力の定着を図る	A		
		数学科	副教材やプリントを用いて繰り返し演習を行うことにより、基本事項の確認と基礎学力の定着を図る	A		
		理科	観察や実験・演示をととして、興味関心を高め、レポートや確認テスト等を通じて基礎学力の定着を図る	A		
		保健体育科	集団行動の意義を理解し礼法を身に付けるとともに、団体種目をととして協調性を育成する	A		
		芸術科	個性を生かした表現活動を行うことで、基本的な技術技能を身に付け、豊かな感性を育成する	A		
		英語科	検定等を活用し生徒が自身の英語力を把握した上で、定期的な補習等の個別指導を通じて、基礎学力の定着を図る	A		
		家庭科	身近な資料の提示や実習を多く取り入れることにより、自立した生活を営むために必要な基礎学力の定着を図る	B		
		機械科	「課題研究」、「実習」等において、生徒が主体的に考えたり、学んだりする場が充実する教材を取扱い、また、工業基礎学力テスト等を活用し、基礎学力の定着を図る	A		
		電気科	「課題研究」、「実習」等において、生徒が主体的に考えたり、学んだりする場が充実する教材を取り扱う	B		
		建築科	「課題研究」、「実習」等において、生徒が主体的に考えたり、学んだりする場が充実する教材を取り扱う	B		
		土木科	「課題研究」、「実習」等において、生徒が主体的に考えたり、学んだりする場が充実する教材を取り扱う	A		
	工業化学科	「課題研究」、「実習」等において、生徒が主体的に考えたり、学んだりする場が充実する教材を取り扱う	B			
	4-2	国語科	精読の場面等で電子黒板を活用したり、調べ学習や意見交換の場面で生徒にタブレット端末を活用した学習活動を行わせる等、ICTを効果的に活用し、創意工夫した授業を実践する	A	A	
			本校の指導と評価の一体化に関するガイドラインに沿って行った評価を指導に活かす	B		
		地歴公民科	問題解説の場面等で電子黒板を活用したり、問題演習の場面で生徒にタブレット端末を活用した学習活動を行わせる等、ICTを効果的に活用し、創意工夫した授業を実践する	A		
			本校の指導と評価の一体化に関するガイドラインに沿って行った評価を指導に活かす	A		
		数学科	問題解説の場面等で電子黒板を活用したり、問題演習の場面で生徒にタブレット端末を活用した学習活動を行わせる等、ICTを効果的に活用し、創意工夫した授業を実践する	A		
			本校の指導と評価の一体化に関するガイドラインに沿って行った評価を指導に活かす	A		
		理科	観察・実験の映像やアニメーションを提示する場面等で電子黒板を活用したり、調べ学習の場面で生徒にタブレット端末を活用した学習活動を行わせる等、ICTを効果的に活用し、創意工夫した授業を実践する	A		
			本校の指導と評価の一体化に関するガイドラインに沿って行った評価を指導に活かす	A		
		保健体育科	応急手当の学習等で電子黒板を活用したり、体育理論の場面で生徒にタブレット端末を活用した学習活動を行わせる等、ICTを効果的に活用し、創意工夫した授業を実践する	B		
			本校の指導と評価の一体化に関するガイドラインに沿って行った評価を指導に活かす	A		
		芸術科	鑑賞の場面等で電子黒板を活用したり、調べ学習の場面で生徒にタブレット端末を活用した学習活動を行わせる等、ICTを効果的に活用し、創意工夫した授業を実践する	B		
			本校の指導と評価の一体化に関するガイドラインに沿って行った評価を指導に活かす	B		
		英語科	ICTを効果的に活用し、創意工夫した授業を実践する。Show and Tellの原稿作成における調べ学習やプレゼンテーションにおいて、生徒にタブレット端末や電子黒板を活用させる。	A		
本校の指導と評価の一体化に関するガイドラインに沿って行った評価を指導に活かす			A			
家庭科	作業工程など学習の理解を助ける教材を提示する場面等で電子黒板を活用したり、学習に関する調査活動の場面で生徒にタブレット端末を活用した学習活動を行わせる等、ICTを効果的に活用し、創意工夫した授業を実践する	B				
	本校の指導と評価の一体化に関するガイドラインに沿って行った評価を指導に活かす	B				
機械科	機械技術を図や表を使って説明する場面等で電子黒板を活用したり、問題演習や用語調べの場面で生徒にタブレット端末を活用した学習活動を行わせる等、ICTを効果的に活用し、創意工夫した授業を実践する	A				
	本校の指導と評価の一体化に関するガイドラインに沿って行った評価を指導に活かす	B				
電気科	課題研究などの授業で、classroomを利用してグループによる調査研究を行い、ICTを効果的に活用し、創意工夫した授業を実践する	A				
	本校の指導と評価の一体化に関するガイドラインに沿って行った評価を指導に活かす	B				
建築科	建築に関わる学習指導の場面で電子黒板を活用したり、実習や製図、課題研究の場面で生徒にタブレット端末を活用した学習活動を行わせる等、ICTを効果的に活用し、創意工夫した授業を実践する	A				
	本校の指導と評価の一体化に関するガイドラインに沿って行った評価を指導に活かす	B				
土木科	土木技術の説明をはじめ専門分野の学習活動の場面で電子黒板を活用したり、問題の演習や対話的な学びを実践する場面で生徒にタブレット端末を活用した学習活動を行わせる等、ICTを効果的に活用し、創意工夫した授業を実践する	A				
	本校の指導と評価の一体化に関するガイドラインに沿って行った評価を指導に活かす	A				
工業化学科	工業化学にかかわる学習指導や活動の場面で電子黒板を活用したり、問題演習、専門分野調査の場面で生徒にタブレット端末を活用した学習活動を行わせる等、ICTを効果的に活用し、創意工夫した授業を実践する	B				
	本校の指導と評価の一体化に関するガイドラインに沿って行った評価を指導に活かす	B				

5	5-1	生徒会	生徒によるいじめ防止の呼びかけ等を実施し、生徒同士が互いの人間性を高める取組を行う	B	B	A
		人権教育・同和教育推進	外部による、全校生徒及び職員対象の人権教育に関する講演会を開催する	C		
		人権教育・同和教育推進	教員研修会を年2回(現地研修、校内研修会)行い、差別の実態に学び、生徒への人権教育に生かす	B		
		生徒指導	ゲートキーパー研修及びSOSの出し方授業を実施し、生徒の心の安定を図る	A		
		生徒指導	教科及び委員会と連携して、「SNSに関する教育」、「インターネットトラブル防止」、「情報モラル」に関する学習機会について、企画し実施する	A		
		いじめ防止対策委員会	定期的に「いじめに関するアンケート」を実施し、いじめの早期発見に努める	B		
		特別支援教育委員会	ツール等を活用して生徒の困り感を把握し、生徒の個性等とともに職員間で情報共有する	A		
	5-2	生徒指導(生徒会)	風紀委員会を中心とした生徒への呼びかけを実施し、基本的な生活習慣の確立や規範意識の向上に努める	A	A	
		生徒指導	頭髮服装検査を実施し、全職員でマナーアップに向けた指導を行う	A		
		生徒指導	バイク実技講習会、交通講話、薬物乱用防止講話等を通じ、規範意識を醸成する	A		
		保健・防護	ゴミ分別の指導を徹底し、環境美化、安全確保の意識を醸成する	A		
	6	6-1	生徒会	部活動を奨励し、生徒の放課後の充実を図る	B	A
			生徒会	生徒の自主性を活かした、体育祭、北斗祭の成功を目指す	A	
		6-2	保健・防護	保健だよりを計画的に発行し、心身の成長に適した行動を推進する	A	A
保健・防護			防災訓練を実施し、緊急時における対応に対する備えを行い、安心して生活できる力を養う	A		
部顧問会議			部活動の在り方に関する総合的なガイドラインに沿った適切な部活動を行う	B	B	
7	7-1	企画調整会議	定時退庁日や学校閉庁日の設定を通じて、勤務時間の適正化に努める	B	B	
	7-2	安全衛生委員会	学校管理医とも連携しながら、勤務時間や職場環境の適正化に努め、ストレスチェック制度の結果等を活用し、職場環境を整える	B		
成果	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職1次内定率92.4%、最終就職内定率100%、公務員10人、国公立大学進学者15人であった。 ・運動部・文化部ともに全国大会北信越大会等に出場した。 ・学校見学会に参加して満足と回答した中学生の割合は93.5%、保護者の割合は91.8%であった。 ・地域の小学校、中学校、商工会などと連携を深め新しい取組を実践した。 ・体育祭と文化祭を保護者への公開や、生徒の作品を動画配信する等、教育活動の成果の外部発信を推進した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登下校時の自転車運転マナー等について、引き続き、指導の充実を推進する。 ・校舎のバリアフリー化など施設設備の充実化に向けた取組を進めるとともに、引き続き、生徒への丁寧な対応を推進し、安全、安心な学校づくりを推進する。 			総合評価	A	